

中国の電力産業第12次5カ年計画について

2010年の中国の電力供給については、中国国家统计局の「2010年国民経済と社会発展統計公報」によると、年間発電量は4.19兆kWhに達した。この数字は「中国の第11次5カ年エネルギー計画（2006～2010年）」の3.5兆kWhを大幅に上回るものとなった。発電量のうち、火力発電は全体の81%強を占め、3.4兆kWhに達した。水力発電は0.7兆kWh、原子力・その他は0.07兆kWhである。

2010年の発電設備容量は9.62億kWに達した。2005年の5.17億kWの1.86倍に増加したことになる。火力発電は全体の73.8%を占め、7.1億kWに達し、うち石炭火力発電は6.5億kWであった。石炭火力発電は発電設備全体の67.6%、火力発電全体の92.1%を占める。水力発電設備は2.1億kW（全体の21.8%を占める、以下同）、天然ガス火力発電は2,400万kW（3.8%）、原子力は908万kW（1.0%）、風力発電は約3,000万kW（3.1%）である。

2010年の発電設備の現状と第11次5カ年計画の指標とを比べると、発電設備全体では1.32億kWを超え、うち石炭火力は6,016万kW、水力は2,000万kW、風力は2,500万kWを超えた。原子力と天然ガス火力発電は計画通りとなっている。

中国の電源構成は基本的に石炭火力に依存し、石炭の安定供給は電力産業として生命線と言えるが、中国の燃料価格と電気料金制度に起因する石炭供給不足問題が電力の安定供給にとって最も大きな課題になっている。中国の電気料金は依然として規制価格であり、産業保護並びに社会安定のために、低価格制度が維持されている。一方、近年中国の石炭価格は既に市場化されており、発電用石炭価格も上昇し、発電企業の殆どすべてが赤字経営の状態に陥った。

「中国の電力産業第12次5カ年計画（2011～2015年）」によると、2015年の電力需要は6.27兆kWh（ベースケース）、2010年の4.19兆kWhより2.08兆kWh増える。年平均伸び率は8.4%になるが、第11次5カ年計画期間の11.1%を下回ると予測されている。その理由として、産業構造の調整、電力消費原単位の低下、環境の制約などによって、電力消費の伸び率が低くなることが挙げられている。中国の計画によると、2015年時点で、第1次産業の電力需要は電力総需要の2%、第2次産業は71%、第3次産業は12%、生活用電力は14%を占めることになる。一方、2010年の電力需要の構成はそれぞれ、2.4%、74.7%、10.7%、12.2%であった。

電力産業第12次5カ年計画によると、2015年の発電設備容量は14.37億kWとなり、2010

年よりも 4.75 億 kW 増加する。2015 年の電源構成において、火力発電が全体の 68% を占める。石炭火力発電の設備容量は 9.33 億 kW、天然ガス火力発電は 3,000 万 kW に達する。また、水力発電は 2.9 億 kW、原子力発電は 4,000 万 kW 以上、風力発電は 1 億 kW 以上にすることが計画されている。

(エイジウム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>